

地域魅力化プログラム 体験講座

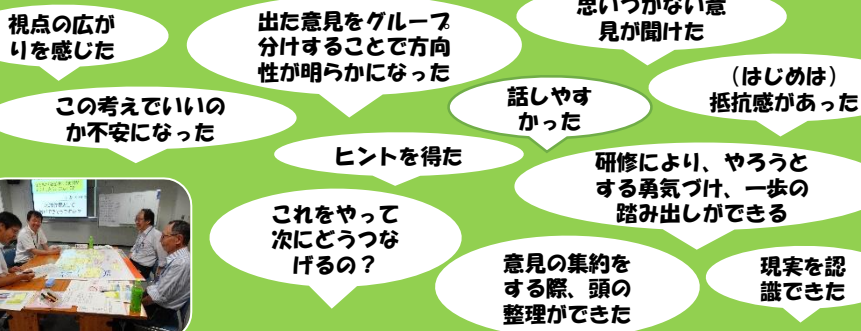
2019.5.30 (木) いわみーる

【説明①】「地域魅力化プログラム」とは

人口減少や過疎化が進む島根県。人と人のつながりも希薄になってきているのではないのでしょうか。さまざまな課題解決に向けて市町村や公民館等が核となって取り組んでおり、住民同士が話し合う機会も増えています。このプログラムを活用いただくことで、地域住民に主体的な“学び”と“動き”が生まれ、それぞれの地域の活動が活性化し、ひいては、地域づくりに主体的に参画する人づくりの機運が醸成されることを期待しています。



【感想共有】プログラム体験の感想を伝え合う



【演習】「グループワーク『地域魅力化プログラム』の活用について考える」

* 「地域魅力化プログラム」を活用できそうな「対象者」と「場面」を考える。

・対象者（小学生、中・高生、高齢者、大学生・・・）が書いてあるカードを選び、その対象者にとっての話し合いの場をみんなで意見を出し合う。（ブレインストーミング）

* 考えた話し合いの場の中で、自分の立場でできそうなもの、立場は関係なくできそうなものにシールを貼る。

* 難しいと思われるものに、その理由を書き込む。

* 難しいものについて、どうすればできそうかアイデアを出す。

* 各グループの考えをまとめた模造紙を見て回る。（プレゼン・プレゼン）

・グループの中で1名を残し、あとのメンバーは他のグループへ移動する。
・残った1名がテーブルホストとして話し合いの様子を紹介する。
・それぞれもとのグループに戻り、様子を全体共有する



【体験】地域魅力化プログラム3-④-③

「こんな町 めざそう! どんなこと できそう?」

* プログラムを地域住民として体験することで、参加型の研修・講座の特徴を体感する

◆ プログラムの内容と前回（①②）までの流れを知る。

（これまでの話し合いの内容）・・・みいる町を

①住みよい町にしていくために、自分たちで何ができそうか考えました。

②住みよい町とはどんな町か話し合い、「めざす地域像」について考えました。

◆ アイスブレイク

「たいやきカード」を使って自己紹介・他己紹介

◆ ルールとマナーの確認

◆ 中心のワーク



みいる町の「めざす地域像」

子どもから高齢者まで笑顔があふれ、安心してらせる町

めざす地域像に近づくために、地域住民として何ができそう? (ラベルワーク)



【説明②】「地域魅力化プログラムの意義と活用」

『地域魅力化プログラム』の構成

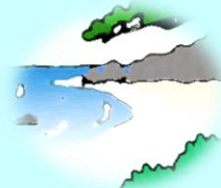
I 『地域魅力化プログラム』について

II 参加型学習の代表的な手法

III 住民の主体的な学びや動きを促す学習プログラム

IV 学習プログラム企画・設計の手引き

V アイスブレイク集



1 地域のよさを考えるプログラム

- ①愛すべき わが町
- ②発想を替えてハッピータウン
- ③活躍! コーレーシャ-!!

2 地域資源の活用を考えるプログラム

- ①わが町 売り込み 大作戦!
- ②地域資源（ひと・もの・こと）をつなごう
- ③公民館で行う文化祭を見直そう
- ④地域の“おたから”を活用しよう

3 地域の将来像を考えるプログラム

- ①元気な地域にするために必要な事
- ②“笑顔あふれるまちづくり”にむけて
- ③“めざす子ども像”を考える
- ④こんな町 めざそう! どんなこと できそう?

4 地域防災を考えるプログラム

- ①災害にあう前に必要なこと
- ②もし 1日前に戻れたなら・・・
- ③いざ! 避難所へ

* 活用にあたって

◇だれにとっての学びの場なのか?

◇その方々がどのような姿になったらよいのか?



「地域魅力化プログラム」体験講座に参加してみて（感想）

- ・「やって終わり」ではなく、次へと繋げるファシリテート力が必要だと思った。
- ・プログラムに沿って進行していくので、頭の中でぼんやり・・・の計画より流れを持って活動できると思う。
- ・プログラムがシリーズになっているので使いやすいと思った。
- ・地域づくりに関わる意識づけには有効なプログラムだと感じた。
- ・このプログラムを地域で行うときには、もっとシンプルにした方が使いやすいかなと思った。
- ・頭の中では理解できているけれど、それらを広げていくには地域の全員の意識が高くならなければうまくいかない。とっても難しいと感じる。

